カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（生物機能開発学コース、食品機能科学コース、発酵・生命科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【A】

1．本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【A】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

・共通教育（人文系、社会系、総合系）を通して21世紀型市民として、世界の多様な国や地域の歴史や伝統、文化を理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける。

・共通教育（人文系、社会系、琉大特色・地域創生、キャリア関係）を通して自らがよって立つ国や地域を説明し理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける。

・専門基礎教育（生物、化学、物理系）を通し、自然科学の基本的な事項を理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける
・専門基礎教育（生物、化学、物理系）は講義の授業で理論を学修するとともに、実験を通して理論を体験として学修し、2年次以降の専門科目の履修に際し、実学としての農学を現象面のみではなく、理論として捉えることができる素養を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【A】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
選択必修（共通）		共通教育（健康運動系、人文系、社会系、自然系、総合系、琉大特色・地域創生、キャリア関係）	20	1～3年次	前期/後期	講義
選択必修（共通）		専門基礎教育（生物、化学、物理系）（2系を各5単位以上）	12	1～2年次	前期/後期	講義+実験

初年次 → 高年次

合計単位数　32

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（健康栄養科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【A】

1．本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【A】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

・共通教育（人文系、社会系、総合系）を通して21世紀型市民として、世界の多様な国や地域の歴史や伝統、文化を理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける。

・共通教育（人文系、社会系、琉大特色・地域創生、キャリア関係）を通して自らがよって立つ国や地域を説明し理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける。

・専門基礎教育（生物、化学、物理系）を通し、自然科学の基本的な事項を理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける。

・専門基礎教育（生物、化学、物理系）は講義の授業で理論を学修するとともに、実験を通して理論を体験として学修し、2年次以降の専門科目の履修に際し、実学としての農学を現象面のみではなく、理論として捉えることができる素養を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【A】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
選択必修（共通）		共通教育（健康運動系、人文系、社会系、自然系、総合系、琉大特色・地域創生、キャリア関係）	16	1～3年次	前期/後期	講義
選択必修（共通）		専門基礎教育（生物、化学、物理系）（2系を各4単位以上）	8	1～2年次	前期/後期	講義

合計単位数　24

初年次 → 高年次

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（生物機能開発学コース、食品機能科学コース、発酵・生命科学コース、健康栄養科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【B】

2. 国際的な人・物・情報の流れが重要性を増した時代において、地域や世界における複雑化した問題を全人類的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【B】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

英語、第2外国語の科目を通し、外国語によるコミュニケーション力を養成し、専門的知識人として、多様な人々から情報を受け取り、自らの考えを伝えることができる能力を身に付ける。

1年次で大学英語を通し、英語の語彙、講読、聞き取りの基礎を学修し、1～2年次で英語講読演習中級・上級で専門的知識人として重要な複雑で高度な内容の英文を読解する能力を身に付ける。

情報科学演習を通し、情報通信技術を活用し、実際的な情報の整理・発信方法を学修し、幅広い分野の情報を収集し処理する基本的スキルを身に付ける。

外国語文献講読の授業を通し、専門分野の英語論文のグループでの輪読（読解・発表・討議）を通し、専門分野の情報を収集し処理する英語運用能力の修得を目指す。

卒業論文を通し、自らが取り組むべき課題、具体的な研究活動・結果についての他者との議論の中で多様で複雑な論点の整理や他者との協調性を身に付けるとともに、論理的に説明する能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【B】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（共通）	情01	情報科学演習	2	1年次	前期/後期	演習
必修（共通）	外101	大学英語	4	1年次	前期	講義+演習
必修（共通）	外102	英語講読演習中級	2	1年次	後期	演習
必修（共通）	外103	英語講読演習上級	2	2年次	前期	演習
必修（共通）		第2外国語	4	1～2年次	前期/後期	講義
必修（専門）	資501	外国文献講読Ⅰ	2	3年次	前期	演習
必修（専門）	資502	外国文献講読Ⅱ	2	3年次	後期	演習
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

初年次 → 高年次

合計単位数　24

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（生物機能開発学コース、食品機能科学コース、発酵・生命科学コース、健康栄養科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【C】

3.「総合科学」としての農学を支える広範な基礎科学に関する知識を築き，農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【C】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

食・農・環境概論、基礎フィールド実習などの学部共通科目の授業を通して、「総合科学」としての農学の位置付けを理解し、農学の基礎となる知識を身に付け、農業・食料・環境・資源分野の問題解決に対する責任を認識する。

キャリア系科目を通し、地域における農学の重要性を理解し、社会の一員として地域社会の要求に対応することの重要性を実践的に理解する。

卒業論文を通し、自ら問題を設定し、自立的・計画的に行動することの重要性を認識することで、問題解決に対する責任を認識する能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【C】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（専門）	農共101	食・農・環境概論	2	1年次	前期	講義
必修（専門）	農共102	基礎フィールド実習	1	1年次	前期	実習
必修（専門）	農共301	キャリアディベロップメント	1	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	農共302	キャリア実習	1	3年次	前期	実習
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

初年次 → 高年次

合計単位数　11

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（生物機能開発学コース、食品機能科学コース、発酵・生命科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【D】

4. 沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性をふまえて、亜熱帯地域に生息する動植物及び微生物等の生物資源並びに伝統食品・発酵食品・その他食資源の特性や機能性を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【D】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

学科共通（コア）科目の履修を通し、沖縄及び亜熱帯地域の自然やこれらの地域で営まれる人間活動を理解し、亜熱帯生物資源科学の知識を活用し社会の抱える問題に総合的に取り組む能力を身に付ける。

生物化学、物理化学、有機化学、亜熱帯生物資源科学総論では、授業を通して、亜熱帯に生育する動植物や微生物の生命現象、細胞の構造・性質、生命の営みの仕組みを学び、専門分野において生じうる諸問題を総合的に問題解決するための認知的基盤を身に付ける。

亜熱帯生物資源科学演習及び実験の授業を通し、協調性を身に付けるとともに、亜熱帯生物資源の機能開発と高度利用に関する社会の要請に応えられるよう、自主的・継続的に学修し、問題解決する能力を身に付ける。

外国語文献講読の授業を通し、専門分野の英語論文のグループでの輪読（読解・発表・討議）を通し、専門分野を総合的に理解する能力を身に付ける。

卒業論文を通し、亜熱帯生物資源科学の社会的役割を認識し、多様な情報を分析し、総合的に問題を解決することができる能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【D】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（専門）	資101	亜熱帯生物資源科学総論	2	1年次	後期	講義
必修（専門）	資151	生物化学	2	1年次	後期	講義
必修（専門）	資211	物理化学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資231	有機化学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資202	亜熱帯生物資源科学実験I	1	2年次	後期	実験
必修（専門）	資203	亜熱帯生物資源科学実験II	1	2年次	後期	実験
必修（専門）	資204	亜熱帯生物資源科学実験III	1	2年次	後期	実験
自由選択（専門）	資201	亜熱帯生物資源科学演習	2	2年次	後期	演習
必修（専門）	資501	外国文献講読Ⅰ	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資502	外国文献講読Ⅱ	2	3年次	後期	講義
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

初年次 ↓ 高年次

合計単位数　23

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（健康栄養科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【D】

4. 沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性をふまえて、亜熱帯地域に生息する動植物及び微生物等の生物資源並びに伝統食品・発酵食品・その他食資源の特性や機能性を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【D】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

学科共通（コア）科目の履修を通し、沖縄及び亜熱帯地域の自然やこれらの地域で営まれる人間活動を理解し、亜熱帯生物資源科学の知識を活用し社会の抱える問題に総合的に取り組む能力を身に付ける。

生物化学、物理化学、有機化学、亜熱帯生物資源科学総論では、授業を通して、亜熱帯に生育する動植物や微生物の生命現象、細胞の構造・性質、生命の営みの仕組みを学び、専門分野において生じうる諸問題を総合的に問題解決するための認知的基盤を身に付ける。

亜熱帯生物資源科学演習の授業を通し、協調性を身に付けるとともに、亜熱帯生物資源の機能開発と高度利用に関する社会の要請に応えられるよう、自主的・継続的に学修し、問題解決する能力を身に付ける。

外国語文献講読の授業を通し、専門分野の英語論文のグループでの輪読（読解・発表・討議）を通し、専門分野を総合的に理解する能力を身に付ける。

卒業論文を通し、亜熱帯生物資源科学の社会的役割を認識し、多様な情報を分析し、総合的に問題を解決することができる能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【D】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（専門）	資101	亜熱帯生物資源科学総論	2	1年次	後期	講義
必修（専門）	資151	生物化学	2	1年次	後期	講義
必修（専門）	資211	物理化学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資231	有機化学	2	2年次	前期	講義
自由選択（専門）	資201	亜熱帯生物資源科学演習	2	2年次	後期	演習
必修（専門）	資501	外国文献講読Ⅰ	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資502	外国文献講読Ⅱ	2	3年次	後期	講義
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

初年次 ↓ 高年次

合計単位数　20

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（生物機能開発学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【E】

5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【E】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

学科提供の選択科目の履修を通し、分野横断的な関心をもちながら、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付ける。

選択科目群から自らの目標達成のため科目を選択することで自立的に学習することを身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題を解決することができる能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【E】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
自由選択（専門）	資252	微生物機能学	2	2年次	前期	講義
自由選択（専門）	資271	食品分析学	2	2年次	前期	講義
自由選択（専門）	資278	健康長寿科学	2	2～3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資215	伝統食糧科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資234	天然物化学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資251	生命科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資253	食品生物工学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資279	食品衛生学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資282	栄養生化学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資286	食品科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資311	遺伝子工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資313	生物機能開発学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資317	植物分子生理学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資334	食品機能化学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資335	栄養生理学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資351	応用酵素学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資352	発酵化学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資353	醸造工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資355	タンパク質工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資314	薬理学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資315	生物工学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資337	食品利用加工学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資356	泡盛醸造学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資357	生命情報科学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資358	分子機能化学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資515	生物機能開発学特別講義Ⅰ	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資516	生物機能開発学特別講義Ⅱ	2	4年次	後期	講義
自由選択（専門）	資535	食品機能科学特別講義I	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資536	食品機能科学特別講義II	2	4年次	後期	講義
自由選択（専門）	資553	発酵・生命科学特別講義I	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資554	発酵・生命科学特別講義II	2	4年次	後期	講義
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

合計単位数　68

初年次 → 高年次

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（生物機能開発学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【F】

6.（生物機能開発学コース）亜熱帯の生物資源の機能特性を分子から生体レベルで追求し、人類の福祉に有効な機能性素材の開発や利用に関する専門的知識を理解する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【F】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

コース必修科目の履修を通し、レベルの高い専門知識を身に付け、専門的職業人として問題を解決することができる能力を身に付ける。

分子生物学、生理活性物質学、糖鎖生命科学では生物及び生命現象の様々な営みを分子レベルで理解し、生物機能開発に関する高度な専門的知識を理解する能力を身に付ける。

生物資源利用学、菌類学では、生物資源の高度な活用について理解する能力を身に付ける。

生物機能開発学実験及び生物機能開発学セミナーでは、コース必修科目の講義で学修した内容の原理・理論を具体的に理解し、高度な専門知識を活用して問題解決する能力を身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決のための研究活動の中で、高度な専門的知識の理解・応用能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【F】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（専門）	資213	生理活性物質学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資212	分子生物学	2	2年次	後期	講義
必修（専門）	資214	糖鎖生命科学	2	2年次	後期	講義
必修（専門）	資217	生物資源利用学	2	2年次	後期	講義
必修（専門）	資333	菌類学	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資511	生物機能開発学実験I	1	3年次	前期	実験
必修（専門）	資512	生物機能開発学実験II	1	3年次	後期	実験
必修（専門）	資513	生物機能開発学セミナーI	1	4年次	前期	演習
必修（専門）	資514	生物機能開発学セミナーII	1	4年次	後期	演習
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

合計単位数　20

初年次 → 高年次

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（食品機能科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【E】

5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【E】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

学科提供の選択科目の履修を通し、分野横断的な関心をもちながら、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付ける。

選択科目群から自らの目標達成のため科目を選択することで自立的に学習することを身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題を解決することができる能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【E】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
自由選択（専門）	資213	生理活性物質学	2	2年次	前期	講義
自由選択（専門）	資271	食品分析学	2	2年次	前期	講義
自由選択（専門）	資278	健康長寿科学	2	2～3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資212	分子生物学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資214	糖鎖生命科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資215	伝統食糧科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資217	生物資源利用学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資234	天然物化学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資251	生命科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資253	食品生物工学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資282	栄養生化学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資286	食品科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資311	遺伝子工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資313	生物機能開発学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資317	植物分子生理学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資333	菌類学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資351	応用酵素学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資352	発酵化学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資353	醸造工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資355	タンパク質工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資314	薬理学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資315	生物工学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資356	泡盛醸造学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資357	生命情報科学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資358	分子機能化学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資535	食品機能科学特別講義Ⅰ	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資536	食品機能科学特別講義Ⅱ	2	4年次	後期	講義
自由選択（専門）	資515	生物機能開発学特別講義I	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資516	生物機能開発学特別講義II	2	4年次	後期	講義
自由選択（専門）	資553	発酵・生命科学特別講義I	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資554	発酵・生命科学特別講義II	2	4年次	後期	講義
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

合計単位数　68

初年次

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（食品機能科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【F】

6.（食品機能科学コース）食品の機能性を健康維持、増進の観点から追求し、新たな食品素材を開発すると共に、健康生活の向上に関する専門的知識を理解する能力

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【F】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

コース必修科目の履修を通し、レベルの高い専門知識を身に付け、専門的職業人として問題を解決することができる能力を身に付ける。

食品機能化学、栄養生理学では食品の生体調節機能に関わる成分について学ぶとともに、栄養素の消化吸収と代謝や免疫について高度な専門的知識を理解する能力を身に付ける。

食品衛生学、食品利用加工学、微生物機能学では食品の加工法や加工・保存時の食品成分の変化や、微生物の特性や応用など、食品に対する高度な専門的知識を身に付ける。

食品機能科学実験及び食品機能科学セミナーでは、コース必修科目の講義で学修した内容の原理・理論を具体的に理解し、高度な専門知識を活用して問題解決する能力を身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決のための研究活動の中で、高度な専門的知識の理解・応用能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【F】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（専門）	資252	微生物機能学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資279	食品衛生学	2	2年次	後期	講義
必修（専門）	資334	食品機能化学	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資335	栄養生理学	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資337	食品利用加工学	2	3年次	後期	講義
必修（専門）	資531	食品機能科学実験I	1	3年次	前期	実験
必修（専門）	資532	食品機能科学実験II	1	3年次	後期	実験
必修（専門）	資533	食品機能科学セミナーI	1	4年次	前期	演習
必修（専門）	資534	食品機能科学セミナーII	1	4年次	後期	演習
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

合計単位数　20

初年次 → 高年次

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（発酵・生命科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【E】

5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【E】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

学科提供の選択科目の履修を通し、分野横断的な関心をもちながら、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付ける。

選択科目群から自らの目標達成のため科目を選択することで自立的に学習することを身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題を解決することができる能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【E】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
自由選択（専門）	資213	生理活性物質学	2	2年次	前期	講義
自由選択（専門）	資271	食品分析学	2	2年次	前期	講義
自由選択（専門）	資278	健康長寿科学	2	2～3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資214	糖鎖生命科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資215	伝統食糧科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資217	生物資源利用学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資234	天然物化学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資253	食品生物工学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資279	食品衛生学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資282	栄養生化学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資286	食品科学	2	2年次	後期	講義
自由選択（専門）	資311	遺伝子工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資313	生物機能開発学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資317	植物分子生理学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資333	菌類学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資334	食品機能化学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資335	栄養生理学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資353	醸造工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資355	タンパク質工学	2	3年次	前期	講義
自由選択（専門）	資314	薬理学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資315	生物工学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資337	食品利用加工学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資356	泡盛醸造学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資357	生命情報科学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資358	分子機能化学	2	3年次	後期	講義
自由選択（専門）	資553	発酵・生命科学特別講義Ⅰ	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資554	発酵・生命科学特別講義Ⅱ	2	4年次	後期	講義
自由選択（専門）	資515	生物機能開発学特別講義I	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資516	生物機能開発学特別講義II	2	4年次	後期	講義
自由選択（専門）	資535	食品機能科学特別講義I	2	4年次	前期	講義
自由選択（専門）	資536	食品機能科学特別講義II	2	4年次	後期	講義
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

合計単位数　68

初年次 → 高年次

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（発酵・生命科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【F】

6.（発酵・生命科学コース）地域特性を活かした発酵食品の開発、ならびに亜熱帯生物資源の生命現象の解析とその応用に関する専門的知識を理解する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【F】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

コース必修科目の履修を通し、レベルの高い専門知識を身に付け、専門的職業人として問題を解決することができる能力を身に付ける。

分子生物学、生命科学、微生物機能学では、生物及び生命現象の様々な営みを分子レベルで理解し、生命科学に関する高度な専門的知識を理解する能力を身に付ける。

発酵化学、応用酵素学では、発酵と代謝、酵素の科学的特性や酵素の機能を理解した上で、発酵技術を用いた有用物質開発への高度な活用について理解する能力を身に付ける。

発酵・生命科学実験、泡盛醸造学実験及び発酵・生命科学セミナーでは、コース必修科目の講義で学修した内容の原理・理論を具体的に理解し、高度な専門知識を活用して問題解決する能力を身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決のための研究活動の中で、高度な専門的知識の理解・応用能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【F】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（専門）	資212	分子生物学	2	2年次	後期	講義
必修（専門）	資251	生命科学	2	2年次	後期	講義
必修（専門）	資252	微生物機能学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資351	応用酵素学	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資352	発酵化学	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資354	発酵・生命科学実験	1	3年次	前期	実験
必修（専門）	資359	泡盛醸造学実験	1	3年次	後期	実験
必修（専門）	資551	発酵・生命科学セミナーI	1	4年次	前期	演習
必修（専門）	資552	発酵生命科学セミナーII	1	4年次	後期	演習
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

合計単位数　20

初年次 → 高年次

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（健康栄養科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【E】

5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【E】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

学科提供の選択科目の履修を通し、分野横断的な関心をもちながら、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付ける。

選択科目群から自らの目標達成のため科目を選択することで自立的に学習することを身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題を解決することができる能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【E】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）	
自由選択（専門）	資171	健康管理学概論	2	1年次	後期	講義	初年次
自由選択（専門）	資172	栄養学	2	1年次	前期	講義	
自由選択（専門）	資175	栄養学実験	1	1年次	前期	実験	
自由選択（専門）	資276	公衆衛生学	2	1年次	前期	講義	
自由選択（専門）	資174	解剖生理学	2	1年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資271	食品分析学	2	2年次	前期	講義	
自由選択（専門）	資273	病理学	2	2年次	前期	講義	
自由選択（専門）	資275	調理学実習	1	2年次	前期	実習	
自由選択（専門）	資277	解剖生理学実験	1	2年次	前期	実験	
自由選択（専門）	資278	健康長寿科学	2	2年次	前期	講義	
自由選択（専門）	資272	食品分析学実験	1	2年次	後期	実験	
自由選択（専門）	資279	食品衛生学	2	2年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資281	食品衛生学実験	1	2年次	後期	実験	
自由選択（専門）	資282	栄養生化学	2	2年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資283	栄養生化学実験	1	2年次	後期	実験	
自由選択（専門）	資284	ライフステージ栄養学	2	2年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資285	ライフステージ栄養学実習	1	2年次	後期	実習	
自由選択（専門）	資286	食品科学	2	2年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資314	薬理学	2	2年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資334	食品機能化学	2	3年次	前期	講義	
自由選択（専門）	資372	栄養指導実習Ⅰ	1	3年次	前期	演習	
自由選択（専門）	資375	臨床栄養学実習Ⅰ	1	3年次	前期	実習	
自由選択（専門）	資376	給食管理学実習	1	3年次	前期	実習	
自由選択（専門）	資377	臨床栄養学実習Ⅱ	1	3年次	前期	実習	
自由選択（専門）	資378	校外実習	1	3年次	前期	実習	
自由選択（専門）	資382	食育実践演習	2	3年次	前期	演習	
自由選択（専門）	資337	食品利用加工学	2	3年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資356	泡盛醸造学	2	3年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資379	栄養指導論Ⅱ	2	3年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資383	健康栄養科学演習	2	3年次	後期	演習	
自由選択（専門）	資472	公衆栄養学実習	1	4年次	前期	演習	
自由選択（専門）	資573	栄養科学特別講義Ⅰ	2	4年次	後期	講義	
自由選択（専門）	資574	栄養科学特別講義Ⅱ	2	4年次	後期	講義	

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（健康栄養科学コース）

必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

高年次

合計単位数　59

カリキュラム・マップ

【ワークシート：DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

亜熱帯生物資源科学学士教育プログラム（健康栄養科学コース）

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【F】

6.（健康栄養科学コース）人間栄養学の観点から食を科学的かつ実践的に捉え、地域の特性を考慮した健康・長寿社会の実現に関する専門的知識を理解する能力

⇔

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【F】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

コース必修科目の履修を通し、レベルの高い専門知識を身に付け、専門的職業人として問題を解決することができる能力を身に付ける。

生理学、臨床栄養学及び公衆栄養学では人体の生理機能や栄養素の代謝・吸収について理解するとともに、栄養行政や食品に関連した法規など、栄養士に関する高度な専門的知識や能力を身に付ける。

調理学や栄養指導論Ⅰ、給食管理では食品の調理について理解した上で、栄養教育・指導に必要な基礎理論を身に付けるとともに、給食の運営や管理方法など栄養士としての能力を身に付ける。

栄養科学セミナーでは、コース必修科目の講義で学修した内容の原理・理論を具体的に理解し、高度な専門知識を活用して問題解決する能力を身に付ける。

卒業論文を通し、問題解決のための研究活動の中で、高度な専門的知識の理解・応用能力を身に付ける。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価する。学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを評価する。学習成果を適切に評価することで、教育課程の継続的改善に取り組む。

（3）学習教育目標【F】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
必修（専門）	資173	生理学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資274	調理学	2	2年次	前期	講義
必修（専門）	資371	栄養指導論Ⅰ	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資373	臨床栄養学	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資374	給食管理	2	3年次	前期	講義
必修（専門）	資471	公衆栄養学	2	4年次	前期	講義
必修（専門）	資571	栄養科学セミナーⅠ	1	4年次	前期	演習
必修（専門）	資572	栄養科学セミナーⅡ	1	4年次	後期	演習
必修（専門）	資503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	実験+実習
必修（専門）	資504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	実験+実習

初年次 → 高年次

合計単位数　20